

## 公立大学法人富山県立大学 入学式 理事長挨拶

平成30年4月5日（木） アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、平成30年度入学式が挙行される、この良き日にあたり、公立大学法人富山県立大学を代表いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

ここに集う工学部350名、大学院工学研究科86名、計436名の皆さん、ご入学おめでとうございます。厳しい入学試験を突破され、希望に満ちた皆さんをお迎えし、大変うれしく、心から歓迎します。

そして、新入生の皆さんを応援してこられたご家族の皆様にも、お祝いを申し上げます。

また、本日は、石井富山県知事様、県議会の高野議長様はじめ県議会議員の皆様、射水市から夏野市長様、高橋市議会議長様、研究協力会の杉野会長様、経営審議会の朝日委員様をはじめ、多くのご来賓の皆様に、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

本学は、平成2年に工学系公立大学として開学し、平成27年に公立大学法人となりましたが、これを機に6年間の中期計画を立て、これまでの実績をベースに3つの目標を掲げました。

1つ目は学生を大きく伸ばす教育力の高い大学、2つ目は未来を志向した高度な研究を推進する大学、3つ目は広く開かれ地域に貢献する大学を目指すこととし、教職員一丸となって取り組んでおります。

法人化にあたっては、県立の大学として、産業社会から求められる人材の育成と、若者の定着に一層貢献していくため、工学部の入学定員を100名増員する拡充計画を立てまして、昨年4月に工学部としては全国初の医薬品工学科を新設し、本年4月には知能デザイン工学科を知能ロボット工学科に名称変更して拡充するなど、学科の新設拡充を積極的に進めております。

さらに来年4月に、質の高い看護人材の確保と女性の県内定着を図るため、看護学部を定員120名で開設することとし、現在、富山キャンパスに校舎を整備するなど、学部開設の準備を進めております。

3年前までは工学部の入学定員は230名でしたが、昨年4月には330名になり、さらに来年4月に看護学部ができれば、これまでの約2倍の450名の規模になります。

こうした学生の増加、学科の新設拡充に対応するため、大学としては、教員を大幅に増やして教育研究の充実を図るとともに、射水キャンパスに9階建ての新校舎を建設するなど、教育環境の拡充整備を進めております。

これからの富山県立大学は、大学の規模が大きくなり、校舎などの施設が充実するだけでなく、工学部と看護学部の間で、授業や研究面などで、学生や教員同士の交流が進み、活気にあふれ、特色のある、新しい県立大学に進化していくものと期待しております。

こうした拡充計画につきまして、石井知事様をはじめ富山県当局並びに県議会の皆様、協力企業の皆様、地元射水市など、多くの皆様の温かいご支援をいただきながら、しっかりと進めていきたいと考えております。

このように県立大学は、より魅力ある大学を目指しておりますが、新入生の皆さんには、ここで大い

に学び、大学とともに、人として大きく成長発展を遂げていただきたいと思います。

本学は、モノづくりについて、学び、研究する大学ですが、ものづくり産業は、地方にあっても世界的な競争の中で、常に技術の進歩が求められています。どんな業種であれ、人々が求めるニーズをつかんで、より優れた製品やサービスを提供できる企業が成功し、勝ち残ることができるのであり、そうした厳しい競争の中で、新しい技術、新しい文化が創られていくのであります。

皆さんにも、本学でしっかり学び、いろいろな経験を積んで、そうした人々の生活を支え、新しい文化を創る担い手となる技術者、研究者になるよう、努力していただきたいと思います。

そのためには、何事にも消極的にならずに、失敗を恐れず積極的にチャレンジしていくことが大事です。

そして、自分自身の長所短所を知り、長所を伸ばし、短所を克服するよう、こつこつと努力し、自己研さんに努めていただきたいと思います。

皆さんには若さという大きな武器があり、人生に残された時間はたっぷりあります。将来の可能性は無限大です。大いに期待しております。

この富山県立大学のキャンパスで、勉学やスポーツ、友人や先生との交流など、青春を謳歌し、悔いのない素晴らしい大学生活を送っていただくことをお願いしまして、私の挨拶といたします。

平成 30 年 4 月 5 日

公立大学法人富山県立大学 理事長 寺井幹男

皆さん おめでとうございます。